

改善は現状把握から

グリーン経営 認証研修会 濃飛倉庫運輸が報告

環境に配慮した運輸事業者の第三者認証制度「グリーン経営認証」を運営する交通エコロジー・モビリティ財団(東京都千代田区)は、「グリーン経営認証リーダー研修会」を埼玉・大宮で開催した。認証事業者向けに最新情報の提供や現場リーダーらのレベル向上が目的。約200人が参加した。

同認証は、運輸部門に有効な環境保全活動を示したグリーン経営推進マニュアルに基づき、審査・認定する。

も1年目でそれぞれ25・1%、15・1%減少。

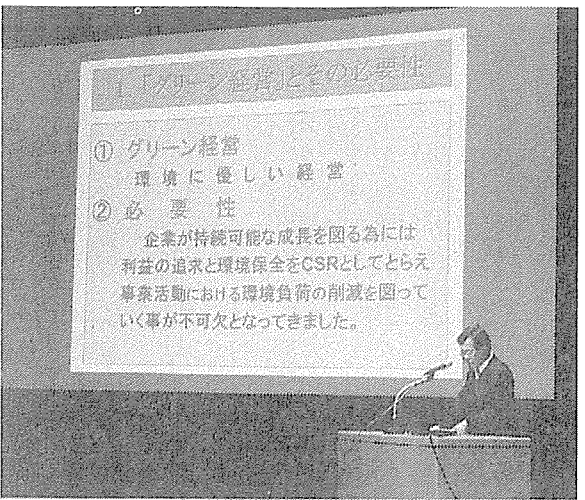
中小企業が容易に取り組めるのが特長で、認証事業所数はトラックが5728、バスが49、タクシーが47

研修会では、加藤信次交通環境対策部長が制度の現状を紹介。トラック認証事業者の平均燃費は業界平均に比べ27・9%高く、取得2年後には約5%向上した。事故、車両故障

また、谷口安男グリーン経営審査グループリーダー担当課長が環境連規制や、グリーン経営継続改善のポイントを解説。「PDC A(計画・実行・評価・改善)を強く意識して回し、一歩でも改善していくことが大事」とした上で、「推進マ

ストでまず現状把握する『C』から回すことがおすす。改善策は皆で話し合っ決めて、それが全社共有して取り組める。環境問題の基本から理解、納得してもらおう教育が成果につながる」と強調した。

このほか、濃飛倉庫運輸(岐阜市)など認証事業者が取り組みを披露。同社はトラック、倉庫の合計45事業所で認証を取得し、CO₂排出量をこれまで約12%低減した。亀山耕史コンプライアンス部長は「社会の一員として安全、環境対応、法令順守にしっかり取り組むことが重要」と語った。



自社の取り組み事例を紹介した濃飛倉庫運輸の
亀山コンプライアンス部長